令和８年度　江戸川区立春江中学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○自ら進んでよく学び、協力して働く生徒 ○規律を守り、責任を重んずる生徒 ○心身ともに健康で、思いやりのある生徒		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・「未来を主体的に生き抜く力を育む学校」 ・「自尊感情とともに多様な他者を尊重、協働し、自ら学び、課題の探求・解決を図ることのできる生徒」 ・豊かな人権感覚と教師としてのプロ意識のもと、自らのよさ・強みを発揮し、組織的に地域と協働し、生徒主体のよりよい教育活動に向けて精進する教師
前年度までの本校の現状	成果	・授業規律がしっかりとしていることに加えて、行事にも前向きに真面目に取り組む生徒が多いこと。 ・学校課題を解決するために、校内研修を分科会ごとに分けて、授業改善する研修環境が整っていること。 ・「オクリンク」「ミライシード」「ムーブノート」の活用率が江戸川区内中学校でも高いこと。 ・Foresight 手帳に自分のスケジュール記録して、計画的な生活ができる生徒が増えてきた。	課題	・全国学力調査、江戸川区学力調査の結果に向けて、ＣＤ層の割合を減らし、一つ上の段階へ上昇させること。 ・自ら学び、課題を見つけ、主体的に考え解決に向かえる力を育成すること。 ・やむを得ず登校できない生徒が自ら主体的に行動し、未来へ歩き出すこと。また、不登校生徒の継続数の減少および新規数の抑制を図ること。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○「何を学ぶか」「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」など学びの意義を実感できる授業 ・単元テストの実施 ・子どもが主役となる授業 ・ルーブリック評価の導入 ・ICT活用の推進	・各授業で学習のねらいやルーブリック評価を用いて評価場面をつくる。 ・定期考査以外に「単元テスト」を実施する。 ・インプット型からアウトプット型の授業に切り替え、教員がファシリテーター役となる授業にする。 ・数学、国語、英語のコンテストを充実させる。 ・「家庭学習のすすめ」を作成して配付し、学習習慣の確立を図る。	・生徒向けアンケートで「わかる」「できた」の肯定的な回答を７０％以上にする。 ・区放課後補習教室の出席率を85%以上（昨年度61%）にする。 ・コンテストの平均点を８０点以上にする。 ・「よむYOMUワークシート」を30回実施し読解力を身につけさせる。											
	○読書科を通した探究学習の充実	・調べる学習コンクールを実施し、作品を提出させる。 ・調べ学習・POP作りを充実させる。 ・ビブリオバトルで多様な表現活動をおこなう。	・提出率４０％以上とする。 ・ＰＯＰは地域の書店へ展示する。 ・ビブリオバトルを地域公開する。											
体力の向上	○生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現	・Dance challenge実施して生涯スポーツの選択肢を広げる。 ・教え合いや運動量を増やすため縦割りや複数教員で指導できる時間を作る。 ・保健の授業では自身の健康、性差、生涯を通じた知識を習得させる。	・補強運動を始業と同時に実施して基礎体力を身に付けさせる、 ・新体力テストで５０m走を全国平均を上回る（前回マイナス６ポイント）											
共生社会の実現に向けた教育の推進	○誰もが安心できる場所の充実	・地域共生社会の実現を目指す。 ・特別支援教育の啓発と合理的配慮の推進。	・地域と連携して福祉体験を年１回実施する。 ・教育支援委員会を中心に個々の実態に支援を行う。											
	○教育相談体制の充実	・生徒や保護者の小さなSOSを見逃さない相談体制や組織的かつ迅速な対応	・夏休み以降に学校全体で二者面談を実施する。											
不登校・いじめ対応の充実	**○いじめ・不登校が生じない魅力ある学校づくりの推進**	・生徒の自己肯定感が高まるよう、学校生活に主体的に取り組める活動を増やし、居場所づくり、きずなづくりを強化する。 ・いじめ防止基本法に基づいた対応と支援を行う。 ・L-GATEを全学年で実施する。	・年３回のアンケートと校内研修（3回）と授業を実施し、いじめを見逃さない。いじめに関する授業を公開する。 ・L-GATEの結果を共有して活用する。											
	○支援体制の充実	・多様な学びのサポート担当教員と連携してエンカレッジルームでの学習を充実させる。 ・ICT機器を活用し学習の支援を行う。 ・SCやSSW、関係諸機関との連携を図る。年２回SCによる授業を実施する。	・オンライン授業の実施 ・教育支援委員会を週１回実施し情報と支援策を共有する。 ・不登校生徒を全体の１０％以下にする。											
地域社会に開かれた学校の実現	**○学校公開の実施およびホームページの充実**	・学校公開期間の延長、道徳授業地区公開講座を実施する。 ・学校ＨＰを更新する。	・年４回の学校公開（道徳公開を含む）を実施する。 ・週に１０回学校ＨＰを更新し年間を通して継続的に情報提供を行う。											
	○教育活動の充実と発展	・地域と連携した体験授業を実施し体験学習の充実を図る。 ・行事等で生徒が主体的に企画・運営する機会を設ける。	・３年生を対象に「赤ちゃん触れ合い」を３月に実施する。 ・体育祭と生徒総会で生徒が前面に出る場面や企画運営をさせる。											
特色ある教育の展開	**○デジタル機器を活用した学習の推進と家庭学習の定着**	・タブレットやデジタル教材を活用して生徒の理解を深める。 ・ミライシードを充実して家庭学習の定着を図る。	・デジタル学習アプリの利用率を区内中学校の３位内にする。											
	○防災教育の充実と推進	・町会、消防、区と連携した防災教室を１２月に実施する。 ・日常から生徒の防災意識の向上を図る。	・12月に防災教室を実施し地域から３０名以上の参加を目指す。 ・月1回避難訓練を実施する。											
	○学校に関わる全ての人のウェルビーイングを目指す	・業務の効率化やＩＣＴの推進を推進して働きやすい環境を構築する。	・教職員の時間外労働を月平均で15時間以内に抑える。											